



おにぎり通信

2021年12月18日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷、銀座、日比谷、秋葉原、日本橋、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

上野公園の西郷隆盛の銅像は、1898年12月18日にお披露目されました。上野の西郷さんといえば犬です。西郷さんは犬が好きでした。

他に犬で有名といえば、生類憐みの令を出した徳川綱吉です。いぬ年生まれで、特に犬を大切に、犬公方と呼ばれました。ところが、綱吉は、別に犬が好きだった訳ではなく、幼い頃に経験した大火事や、穢れを嫌う公家出身の母親、世継ぎの子供が幼くして死んだこと等が影響し、迷信掛かった思いもあり生き物の殺生を禁じたようです。

片や西郷さんは、異常なほどの犬好きで、いつも犬と一緒に、祇園に行っても舞妓遊びなどせず犬とウナギを食べ、戦の場にも犬を連れて行きました。欲がなく、世のため人のため、純真で子供のような西郷さんは人から愛されましたが、その純粋さや思いの強さ故か、他人と深く付き合うということが少なく、その孤独感を、誠実に付き従う犬を可愛がることで癒していたようです。孤独の話は、裏面に続きます。

福祉行動を希望の方は、おにぎりを配る時に、お声がけください。

病院や生活相談等で、福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお渡しに伺った際に声がけ下さい。毎週土曜日の訪問活動の時に声がけ頂いた場合、翌週以降に福祉事務所まで同行します。

中央区福祉事務所・中央区築地1-1-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所・千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階



おにぎりを包むラップや読み終わった通信は、放置せずゴミ箱へ



おにぎりは、お1人1個で、その日のうちに召し上り下さい

こどくかん
【孤独感】

人間は、痛みを感じるお陰で危険を避けることができます。社会的な痛み、すなわち孤独感も同じような理由で進化しました。この痛みを感じるお陰で、他の人々と社会的につながろうとする結果、孤立せず安全でいられたのです。孤独感は、社会的なつながりに対する「飢え」や「渇き」と言えます。お腹が空いたり、のどが渇いたりした時は、食べたり飲んだりすれば満たされます。しかし、孤独感、誰かと一緒にいれば無くなるというものでもなく、どうすれば孤独感を癒せるかという問いには、単純な答えはありません。

古より、賢者たちも孤独感に向き合ってきました。中国の詩人では、杜甫が「拙をもって吾が道を存し 幽居して物の情に近づく」（上手く行かず独り暮すお陰で鳥 虫 草木の気持ちが分かってきた）と、孤独の中でしみじみ詠い、陶淵明は「杯を揮げて孤影に勧む」と、自らの影と杯を交わして酒を飲み、孤独を深く味わっています。禅宗のお坊さんは、身体を動かすことを勧めます。日常生活には沢山やることもあり、心を集中させて懸命に取り組むことが、孤独から来る寂しさを逃れる一番の方法だと言います。ドイツの哲学者ショーペンハウアーは、幸福の敵は退屈と苦しみであるとして、愚鈍な人は、社交だ旅行だ観劇だと次々変化を求めても退屈を追放できないが、精神力豊かな人は、全く孤独な立場にいても、己の精神や空想力で楽しめると言います。ベストセラー「孤独のすすめ」の作家・五木寛之は、自分をしっかり持つ「和して同ぜず」という生き方を勧めます。よほどの人でない限り、誰でも孤独感を持っています。みんな孤独なんだと自分を慰めつつ、西郷さんにとっての犬のように、自分なりの方法で、孤独感と上手に付き合っていくしかないのかなと思います。



よつや なかま ちよだくこうじまち せい きょうかい
四ツ谷おにぎり仲間 千代田区麹町6-5-1 聖イグナチオ教会
れんらくさき れんらくかのうじかん まいしゅうどうようび ごご じ じ
連絡先 080-7967-8672 (連絡可能時間 毎週土曜日午後3時~6時)